

きゅうり

1 作型

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	半促成栽培 —— —————																	
	露地栽培 —————																	

月 旬	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	半促成栽培																	
	露地栽培																	
	抑制裁培 — — —————																	

: 播種 : 仮植 : 定植 : 収穫

アピールポイント

- ・出荷時期: 3月中旬～6月上旬、7月上旬～11月下旬
- ・半促成、露地、抑制裁培の作型のリレーにより、継続して高品質なキュウリが出荷できます。
- ・外観に優れるもの、食味・食感に優れるものなどニーズに合わせた品種の選択が可能です。



2 各作型のポイント

(1) 露地栽培

品種は北宝2号、ステータス夏（台木：ひかりパワー）などを用います。

直播きでは3粒ずつ播種した後、間引きを2回行い、本葉4～5枚までに1株にします。

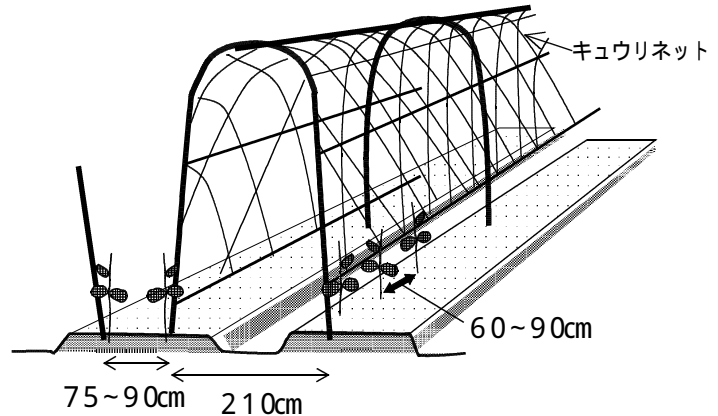
6節までの雌花は早めに取り除きます。また、本葉10枚以上になったら、6～7節までの側枝を2～3回に分けて順次取り除きます。側枝は1節か2節で摘心、孫枝は込み具合を見て、摘心または放任にします。

(2) 半促成栽培

品種はハイグリーン21、ハイグリーン22（台木：ニュースーパー雲竜、昇竜）などを用います。

発芽から接木活着後までは温床（電熱線）により十分な地温を確保します。本圃では、温度を確保するために、早めにマルチ張り、トンネルの設置を行います。マルチは透明やグリーンなど光を通す物を使用します。

草勢を維持するため、7節までの雌花は早めに取り除きます。本葉8枚以上になったら、5節までの側枝を取り除きます。側枝は1節か2節で摘心、孫枝は込み具合を見て、摘心または放任します。主枝の摘心は18～20節で行います。



キュウリの栽培棚

(3) 抑制裁培

品種は大将（台木：ニュースーパー雲竜、昇竜）などを用います。

育苗期が高温になるため、苗が軟弱徒長しないよう、こまめな温度管理と水管理を心がけます。また、本圃でも、少量多回数の水やりにより健全な根を保ち、草勢を維持します。

5節までの雌花は早めに取り除きます。本葉8枚以上になったら、5節までの側枝を取り除きます。他の側枝は1節か2節で摘心、孫枝は込み具合を見て、摘心または放任します。主枝の摘心は18～20節で行います。

(4) 各作型共通

肥料については、十分な有機質を投入するとともに、基肥に緩行性のものを中心に施用し、追肥は第1果の収穫あたりから14日間隔で行います。

樹の内部にまで光があたるよう、摘葉も随時行います。ただし、生長点が少なくなると根の生育が抑えられるため、摘心・摘葉は一斉に行わず、常に強い生長点が3～4本残るようにします。

うどんこ病、べと病等の発生を防ぐため、ハウスの換気に努め、風通しをよくします。露地栽培では、摘心・摘葉による過繁茂の防止や敷きわらにより病害を予防します。